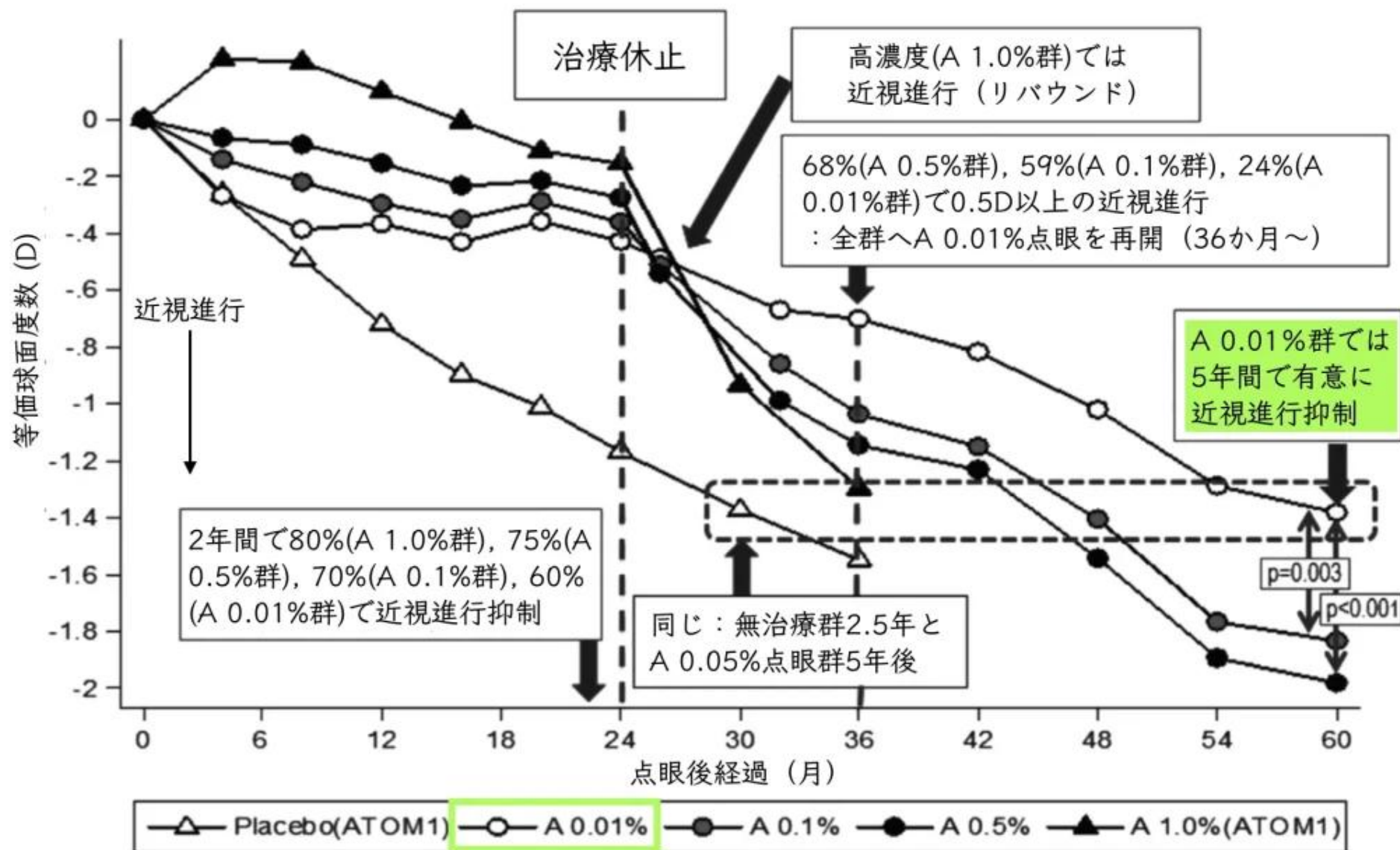


低濃度アトロピン（A）による近視抑制効果



グラフからわかること

- ・低濃度アトロピン点眼は、0.01%から1.0%までにおいては、濃度依存性に近視進行抑制効果がみられた。
- ・ただし、治療開始2年後に-0.1から-0.4ディオプター（D）は近視が進行した。
無治療だと2年間に-1.2D近視が進行した。
- ・一方、2年後に治療を中断すると、濃度依存的に中止期間中に近視が進行した（リバウンド）。
- ・1年間の中断の後に0.01%点眼を再開しても治療開始後の2年間に比べて近視進行抑制効果は少なかった。

リジュセアミニ0.025%について

リジュセアミニ0.025%（0.025%アトロピン点眼液）は、0.01%と0.1%アトロピンとの間に位置します。

従って、点眼治療中は0.01%アトロピンよりも近視抑制効果は大きいですが、2年間で-0.3から-0.4Dは近視が進行します。

また、中断によりリバウンドが生じ、かえってより近視が進行します。

ただし、以上のことは平均的なことですので、近視抑制効果やリバウンドの程度には個人差があります。

リジュセアミニ0.025%を用いた小児の近視進行抑制治療

治療は自由診療ですので、各医療施設により治療費は異なります。

治療費の目安 薬剤費（一月約4400円）
検査費用 初診料2880円（6歳未満3630円） 再診料730円（6歳未満1110円）
矯正視力検査690円（受診ごと）
屈折検査690円（初回以降は3か月ごと）
調節検査700円（年1－2回）
細隙灯顕微鏡検査（前眼部）480円（年3－4回）
精密眼底検査（両眼）1120円（年1－2回）
光学的眼軸長測定1500円（年1－2回）

※検査費用の金額は保険診療の場合の参考金額。3歳以上6歳未満は幼児加算40/100。

1年間に薬剤費約53,000円、検査費（3か月ごとに受診した場合）合計約20,000円で、全額は約73,000円
もし、毎月受診して視力検査をした場合は約77,000円

実際は、以上に加えて、副作用が出た場合の治療費、メガネやコンタクトレンズを作成する場合の処方料、人件費などが加算されますので、年間8万円ぐらいが予想されます。
3か月ごとに支払うとすれば、薬剤費を含んで2万円程度。

自由診療：リジュセアミニ0.025%を用いた小児の近視進行抑制治療

本治療中は、近視に関する診療（眼鏡やコンタクトレンズ処方を含む）や、本治療による副作用治療に医療保険は使えません。

契約金額（本治療に支払う金額）はそれらを加味したものです。

高額療養費制度や、市町村ごとに定められた小児医療費公費負担制度は利用できません。

本治療中のカルテは、保険診療カルテと完全に分けたものが必要です。両方に診療開始日を記載。

治療にあたり、**説明書**を用いて本人及び保護者に十分な説明を行うこと。

説明事項（１）診断（病名と病状）（２）実施予定の治療内容、費用、頻度（３）治療に付随する危険性
（４）ほかに選択可能な治療法があれば、その内容と利害得失や予後。

診療内容や料金を記載した**同意書**に承諾の署名をもらうことが必要です。

本治療に同意した場合は、関係する諸検査は、治療開始前（医師が治療について説明し、患者さんが希望した時）から自由診療の扱いになります。

混合診療とならないようにご注意ください。

同日に、本治療の検査と、他疾患（例えばアレルギー性結膜炎）の検査はできます。その場合は、自由診療と保険診療の診療録、検査、投薬、処方箋、会計を分けて行ってください。

※広告の制限を遵守してください。

ホームページへの掲載は医療広告要件を遵守し、限定解除要件を満たす必要があります。
バナー広告やリスティング広告はできません。

※1%アトロピン点眼液を近視進行抑制に用いることや、濃度を薄めて使用することは禁止されています。

保険医療養担当規則に抵触した場合、行政処分の対象になりますのでお控えください。

代替治療（次ページ）については日本近視学会のホームページをご参照ください。

<https://www.myopiasociety.jp/general/care/flow.html>

薬剤販売元の参天製薬が説明資料や同意書の雛形等を用意してくれています。

本治療を始める施設の医療従事者は、できるだけ事前に説明会等を行い、十分なご準備をお願いいたします。

多くの患者さんにトラブルなく応用してくださるようお願いいたします。

令和7年4月

岡山県眼科医会
会長 高須逸平

代替治療

○近視管理用眼鏡 既に各種販売されている。

効果: 近視進行を55～60%抑制。

治療費概算: 初期費用約5～10万円、年間メンテナンス費用約1～2万円。

Lam CSY, et al. Defocus Incorporated Multiple Segments (DIMS) spectacle lenses slow myopia progression: a 2-year randomised clinical trial. Br J Ophthalmol.2020 Mar;104(3):363–368. doi:10.1136/bjophthalmol-2018-313739.
Bao J, et al. Spectacle Lenses With Aspherical Lenslets for Myopia Control vs Single-Vision Spectacle Lenses: A Randomized Clinical Trial. JAMA Ophthalmol. 2022;140(5):472–478. doi:10.1001/jamaophthalmol.2022.0401

○多焦点ソフトコンタクトレンズ MiSight®1day 国内治験が2024年12月に終了し、承認申請中。

効果: 近視進行を59%抑制。

治療費概算: 月額約8,000円(年間約10万円)。

Chamberlain P, et al. A 3-year Randomized Clinical Trial of MiSight Lenses for Myopia Control. Optom Vis Sci. 2019 Aug;96(8):556–567. doi: 10.1097/OPX.0000000000001410.

○オルソケラトロジー 既に各種HCLで治療可能。

効果: 近視進行を32～63%抑制。

治療費概算: 初年度約15～20万円、2年目以降年間約5万円。

Hiraoka T. Myopia Control With Orthokeratology: A Review. Eye Contact Lens. 2022 Mar 1;48(3):100–104. doi: 10.1097/ICL.0000000000000867.

○レッドライト治療法 長期的安全性の検証が未だ。

効果: 近視進行を約90%抑制。

治療費概算: 月額約5,000～7,000円。

Jiang Y, et al. Effect of Repeated Low-Level Red-Light Therapy for Myopia Control in Children: A Multicenter Randomized Controlled Trial. Ophthalmology. 2022 May;129(5):509–519. doi: 10.1016/j.ophtha.2021.11.023.

参照

[1] [近視の進行抑制治療 | 日本近視学会 Japan Myopia Society](#)

[2] [診療のご案内：小児近視外来＞東京科学大学 眼科学教室](#)

[3] [近視抑制部門 - 先端近視センター](#) (東京科学大学 関連センター)